

山便り ぼんぼり

2007年9月から「緑の募金」から助成を受け、「緑の募金公募事業」として森林整備活動に取り組んでいます

毎月第一土曜日、第三日曜日 10時～15時位に活動中です。

第32回定例活動の報告

(8月17日 第三日曜日)

・参加者 18名

・朝からどんよりした曇り空、天気予報もあまりかんばしくないようだ。このところ天気が安定していない。しよっちゅう各地に大雨洪水警報が出されている。なんだか南国のスクールをようだ。これはやはり地球温暖化の影響か？

・小雨が降り続けているためビニールハウスを借りして朝のミーティング。今日の作業としては森林整備は雨の様子を見ながら注意して行なうこと、山主さんから申し入れがあった道具の置場所の移動、柚子の剪定枝の焼却処分などを行なう。



【森林整備】



・小雨は依然として続いているがとりあえず午前中は注意しながら作業を行なうことにし、除伐隊とボサ刈隊に分かれて森に入る。除伐隊は下部、ボサ刈隊は上部とに分かれて作業に取り掛かる。ボサ刈のため斜面を上つ

ていくともやがかかかって近くで作業する仲間達の姿もかすんで見える。この時期の作業は晴れていけば汗によって濡れるのだが、今日は雨と葉から落ちてくる水滴で濡れる、どちらでも濡れることには変わりはないが!!
.....
「下段へつづく」

・除伐はかかり木との戦い。樹と樹の間隔が狭い上樹高が高いのだから当然といえるが。伐採、除伐後の玉切処理、倒木の処理なども併せて行い、今日の成果は約60本。



【道具小屋の整備】

・「(地元)おばあちゃん宅に落雷」の緊急メール。「こりや大変」とばかりにインパクトドリルや丸ノコを持参した○組シヤチョー。下請けのシヤチョーや孫請けのオジサンはいつもながら丸腰。きつと落雷後の片付けでもと考えていたらしい。片づけて初めて大工道具が役立つのに。この辺のところが若干の雷被害の影響から道具を置かしてもらっている物置から別の物置に移動することになった。おばあちゃん曰く「こつちの物置を使いなさいよ。おじいさんが何でもかんでも残しておく人だったから板もあるし、いらぬものは燃やしちやうていいから。いい場所になるよ」と。そこで大工道具が役立つことになった。

それみたことかと元請けシヤチョーの鼻は高くなる。早速作業。作業員はいつもの縦社会三人組。そして炊事班のオニイチャンや茶の湯のソーショーも加わって不要物の搬出。いらぬものは火燃し班により焼却処分。下請けシヤチョーがきれいに床を掃除。
.....
「下段へつづく」

柵づくりに必要な板や角材も十分にある。あうんの呼吸で3メー強位の2段の柵が完成。母屋で使っていたという板の引き戸で隣のスペースとの間の境を作る。何やらここだけ見れば今はやりの古民家風。そこに抜き板を2段に貼ってヘルメット掛け。22個のヘルメットや命綱が整然と並ぶとなかなかのもの。さらに工夫が...。畳大の板を利用して簡単に取り外し可能な雨戸を造作。ちよつと見には取り外せるようには見えない。まるでテレビ番組の「ビフォー&アフター」のナレーターのように「なんとということでしょう」の一言が出そうだ。その下には不要の雨戸をキチンとまとめて倒れないようにに支えを作りそのうえに板を流してチェンソーなどを整備する作業台も完成。「うまくつくったね〜」おばあちゃんは目をパチクリ。これからさらに整備すればここで会議も、いや、宿泊もと夢は広がる。



・今日はそこまでできなかったが、雷のほか雹(ひょう)の被害もあった。おばあちゃん宅の母屋横の屋根に何か所も穴が開いた。孫請けのオジサンが抜け目なく宣伝して屋根修理の仕事を受注してきた。たぶん屋根根に上って修理するのは元請けのシヤチョー。地上で指図するのは孫請けのオジサンという構図。これつてまさに下剋上?とにもかくにも雨にも濡れず風にも当たらず埃高き作業のできた一日でした。